

近年、TCGA プロジェクトを始めとするがんゲノム研究によって胃がんの分子遺伝学的な理解が深まっているが、それらが病態や臨床的表現系に与える影響については、研究が不十分である。近年登場したオルガノイド培養法によって、正常・前がん病変および多様な悪性度のがんから高い効率で培養系を確立可能となり、*in vitro* 解析が可能となった。このような技術はがんゲノム研究の知見を病態理解・治療開発へと結びつけるプラットフォームとなる可能性をもっている。本稿では、胃がんにおけるオルガノイド培養法を応用した最新の知見について紹介する。

胃がんオルガノイドによる 新しい胃がん生物学の理解

Key words

胃がん／オルガノイド／幹細胞／CRSPR-Cas9／
ハイスループットスクリーニング

戸ヶ崎和博

Kazuhiro TOGASAKI

慶應義塾大学坂口光洋記念講座（オルガノイド医学）